

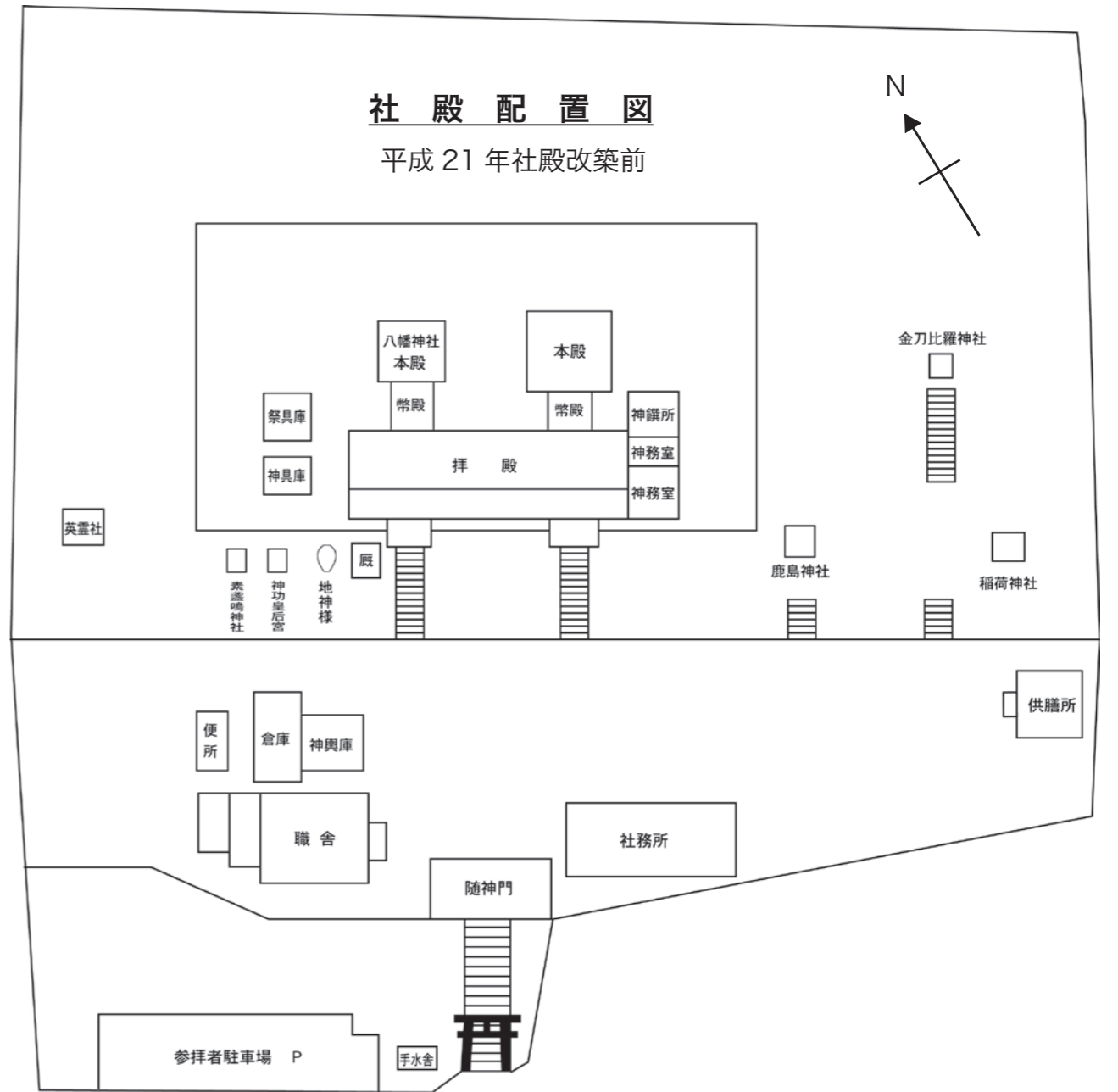
当社の八幡神社は、鶴崎神社の本殿と並んで祀られており、都窪郡誌また、当社由緒によると、八幡大神は石清水八幡宮からの勧請で、神功皇后が三韓征伐のとき、早島の海岸の船泊りでご休息遊ばされたので、里人が光栄に思い、正中年間（鎌倉後期）に屏風島へ小社を建立して、神功皇后と御子である品陀和氣命（応神天皇）を祀り、元中元年（1384）に鶴崎神社本殿と



八幡神社本殿

社殿配置図

平成21年社殿改築前



三韓征伐

日本書紀の記述によれば、住吉三神の神示により、神功皇后が、武内宿禰と共に行ったとされる新羅出兵のこと。

新羅が降伏した後、三韓の残り二国（百濟、高句麗）も相次いで日本の支配下に入ったとされるためこの名で呼ばれるが、新羅征伐と言う場合もある。

応神天皇

仲哀天皇と神功皇后の御子で、皇后が三韓征伐の帰途に神懸かりして生まれたとされる。大陸の文化と産業を日本に伝えた功績がある。在位は270年1月1日～310年2月15日

神功皇后

開化天皇の玄孫である息長宿禰王の御子で、日本書紀によれば201年～269年まで政事を行い、懐中に応神天皇を宿したまま、朝鮮半島に出兵し三韓征伐を行ったとされる。

並べて再建したと伝えられている。また、神社明細書及び都窪郡誌には、八幡神社の祭神として武日方別命の記述が見られる。武日方別命は、伊邪那岐命・伊邪那美命が産んだ国産み六島の一つ「吉備児島」の又の名である。例祭は十月二十七日・二十八日の両日であったようであるが、五月第三日曜日に変更された。平成二十二年からは五月第三日曜日の前日を春祭りとし、十月第三日曜日の前日を秋祭りとして執行されることになった。

鹿島神社

創建年代は不明であるが、寛文年間（1661～1673）までは当社の神宮寺となっており、性徳院（倉敷市中庄）の別当が奉仕していた。祭礼には吉備津神社から奉幣使が参向していたが、同年間から廃止された。

正徳五年（1715）安原和泉守草壁徳忠の本願により再建され、その建築様式は御堂形式で古くは毘沙門天を祀っていた事から、毘沙門堂



御堂形式であった頃の鹿島神社

境内神社

八幡神社

祭神に誉田別命（応神天皇）を祀る神社をいう。一般には息長帯姫命（神功皇后）と比賣神を合わせ祀る。

八幡大神（誉田別命・息長帯姫命・比賣神）を祀り、名称を「八幡神社（宮）」とする神社は各地に祀られ全国で四万五千社を数える。

岡山県には三四八社（神社本庁包括）にのぼる。また当県では備前国と美作国は「八幡神社」の名称であるが、備前国では「八幡宮」となっている。

八幡を「ヤハタ」とも訓むのは朝鮮語で海をいう「ハタ」に由来するとも説明されるが、旧説では「天より八流の旗の降下」によるといわれ、八は大八洲（日本の国土）の義であり、幡は三韓降伏の軍功によって称するとされる。

全国の八幡神社（宮）の本宮は宇佐神宮（大分県宇佐市）である。

貞観元年（859）に大安寺の僧行教の奏請によって宇佐神宮から山城国男山に石清水八幡宮（京都府八幡市）として勧請した。また、康平六年（1063）には源頼義が石清水八幡宮の分霊を相模国由比ヶ浜に勧請したのが鶴岡八幡宮（神奈川県鎌倉市）であり、武士の登場と共に全国に祀られるようになった。